

1997年6月23日

ディケンズフェロウシップ ニュースレター

昔ながらの青紫にまじってピンクや赤いあじさいを見かけることが多いこの頃ですが、みなさまいかがおすごしですか。さる6月7日(土)に神戸大学で開かれた春季大会のご報告をかねて、以下にご連絡いたします。

1. 開会の挨拶

小池滋支部長から開会の挨拶があり、会場を提供して「さった神戸大学の先生方と院止のみなさんに感謝の言葉が述べられた。引き続き次のような連絡事項があった。

- i 本年度の本大会は10月4日(土)午後二時から成蹊大学で開催される。講演はイギリスからマルカム・アンドルーズ氏をお迎えしてお話しいただく予定。研究発表をなさる方は、ふるって支部長までご連絡下さい。
- ii フェロウシップの『会報』は十月の大会時に配布・送付しています。本日の発表者およびシンポジウムの司会・講師の方々はレジュメをお送り下さい。その他の投稿も歓迎します。会員名簿の訂正事項、また会員各位の最近の研究成果などもお申出下さい。いずれも小池支部長宅か、青木健理事宅までご送付下さい。締切りは8月10日(厳守)です。

2. 研究発表

研究発表は青木健氏(成城大学)の司会により、次の二名の方の発表があり、新しいアプローチが見られる発表だった。発表の要旨は会報に掲載される。

- i 廣野由美子氏(山口大学)
「ディケンズの『子どもの視点』 Great Expectations について」
- ii 永岡規伊子氏(大阪学院短期大学)
「Little Dorrit における家族神話の崩壊と再生」

3. シンポジウム

司会兼講師を松村昌家氏(大手前女子大学)、久田晴則氏(愛知教育大学)と西條隆雄氏(甲南大学)を講師として、「ディケンズと監獄」というテーマでそれぞれが約三十分づつ講演したあと、相互の補足説明をかねてディスカッションがあった。水も漏らさぬ豊富な資料が配布され、Dickens and Prisonなる書物が出版される日も遠くないと、思わせる内容であった。要旨は会報に掲載される。

参加者は八十余名、質疑応答も沼発に行われた。懇親会には五十余名の方々が出席し、乾杯のあと、会場の口の前に広がる大阪湾を眺め、テーブルに並んだ料理に手を伸ばしながら旧交を暖め、研究成果などを交換した。あの大震災から二年、復旧に努力され、今回の大会の実現にご尽力下さった神戸大学と同大学の関係者諸兄姉に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。